令和８年１１月２５日 配布

令和８年
１１月
発　行

南達交通安全新聞

南達交通
対策連絡
協議会

年末年始の交通事故防止 県民総ぐるみ運動始まる



運動期間　令和８年１２月１０日(木)から
令和９年１月７日(木)までの２９日間

【運動スローガン】　黄昏に　一番星の　前照灯

運動の重点

(1) 歩行者被害の交通事故防止
(2) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止
(3) 飲酒運転の根絶
(4) 高齢者が関与する交通事故防止
(5) 自転車の交通ルール遵守とヘルメット活用・保険等加入の促進

合同出動式

日　時　令和８年１２月１０日(木)　午後３時３０分～
会　場　サンライズもとみや(本宮市本宮字矢来)
内　容　一日本宮分庁舎所長に平愛梨さん(俳優)を委嘱し、事件事故防止ＰＲイベントや本宮駅前周辺での街頭広報、地元ＦＭラジオに出演いただく予定です。みなさま、ぜひ会場へお越しください。

第３７回 南達交通安全大会開催される

南達交通対策連絡協議会主催の南達交通安全大会は、令和８年１１月１４日(土)に本宮市サンライズもとみやで開催されました。

この大会は、南達一市一村の関係機関、団体などが一丸となって、総合的な交通事故防止対策を推進することを目的に開催され、交通安全功労者や地域別交通事故防止コンクール、交通安全作文コンクールの受賞者に、賞状が贈られたほか、交通安全作文コンクールの最優秀賞作文が発表されました。

大会の最後には、大会宣言が決議され、参加された皆さんは、交通事故防止に対する決意を新たにしました。



【大会長挨拶を述べる　高松　義行　本宮市長】

大会宣言

交通事故をなくすことは、南達一市一村住民すべての願いです。

本日、第３７回南達交通安全大会にあたり、命の尊さを深く認識するとともに、交通事故のない、安全で安心な南達地域を実現するため、決意を新たに、南達地域住民一丸となって次のことを実行し、交通事故の根絶に向けてまい進することを誓います。

1 わたしたちは、関係機関・団体と連携、協力し、「自らの安全は自ら守る、地域の安全は地域が守る」という安全意識をもって、交通事故防止運動を推進してまいります。
2 わたしたちは、「交通安全は家庭から」を合言葉の下、思いやりとゆずり合いの心をもって、こどもと高齢者の交通事故防止に努めます。
3 わたしたちは、交通事故発生時の被害の防止・軽減を図るため、全ての座席で必ずシートベルトとチャイルドシートを着用します。
4 わたしたちは、夕暮れ時や夜間の交通事故防止に効果が高い夜光反射材の着用促進に取り組んでまいります。
5 わたしたちは、地域一体となって飲酒運転根絶運動に取り組み、社会から飲酒運転を追放します。
6 わたしたちは、自動車などを運転する際、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる時は、必ず一時停止しなければならないという交通ルールを守ります。

発行　／　南達交通対策連絡協議会

◎表彰状伝達

≪敬称略≫

東北管区警察局長・
東北交通安全協会長連名表彰
【優良運転者】
星　次男（本宮市）

【交通安全優良学校】
白沢中学校（本宮市）

交通栄誉章（緑十字銅章）
【交通安全功労者】
渡辺　幸雄（本宮市）

【優良安全運転管理者】
大成産業㈱　柏木　裕昭（大玉村）

【優良運転者】
柳内　正美（本宮市）
宍戸　浩巳（本宮市）

福島県警察本部長・
福島県交通安全協会長連名表彰
【交通安全功労者】
増子　広幸（本宮市）
鈴木　友洋（大玉村）
鈴木　昭一（大玉村）

【優良運転者】
水野谷省三（本宮市）
角田　定徳（本宮市）

福島県交通対策協議会長表彰
【交通安全活動協力者】
佐々木嘉宏（本宮市）

◎地域別交通事故防止コンクール

第1位
交通安全協会和田分会（本宮市）
第2位
交通安全協会第3分会（本宮市）
第3位
交通安全協会白岩・松沢分会（本宮市）
第4位
交通安全協会荒井分会（本宮市）
第5位
交通安全協会第2分会（本宮市）
第6位
交通安全協会第5分会（本宮市）

◎交通安全作文コンクール

応募総数382点
≪敬称略≫

【小学生低学年の部】
最優秀賞　糠沢小学校　3年　三瓶　朔花
優秀賞　大山小学校　3年　塩澤緋果梨
佳作　本宮まゆみ小学校　2年　川名かなた
玉井小学校　1年　根本　遥

【小学生高学年の部】
最優秀賞　玉井小学校　4年　遠藤　源大
優秀賞　大山小学校　6年　本田くるみ
佳作　玉井小学校　6年　根本　愛梨
本宮まゆみ小学校　5年　大内　伶真

【中学生の部】
最優秀賞　白沢中学校　2年　磯﨑　陽葵
優秀賞　大玉中学校　1年　武田　陽大
佳作　大玉中学校　3年　押山　咲

【一般の部】
最優秀賞　本宮市　渡邉　美保
優秀賞　本宮市　川名　芳子
佳作　本宮高等学校　1年　磯﨑　茉由

◎感謝状伝達

元　本宮地区交通安全協会長　佐々木嘉宏

交通安全作文コンクール最優秀賞作文を発表する受賞者の皆さん



［小学生低学年の部］
糠沢小学校3年
三瓶　朔花さん



［小学生高学年の部］
玉井小学校4年
遠藤　源大さん



［中学生の部］
白沢中学校　2年
磯﨑　陽葵さん



［一般の部］
本宮市
渡邉　美保さん

★交通安全作文コンクール最優秀賞作品【小学生低学年の部】

『じこにあわない二つの作せん』

本宮市立糠沢小学校　3年　三瓶　朔花

「あぶない。」

わたしは、車にひかれそうになり、おどろきました。車が後ろからきているのに、ぜんぜん気づかなかったからです。あとすこしで、車にぶつかるところでした。まだ心ぞうがドキドキしています。

わたしは、その時、しん号きもなく、おうだん歩道がない道路をわたろうとしていました。いつもわたっているし、車が来ても音でわかるからだいじょうぶと思っていました。わたしが、いつものように道路をわたろうとすると、きゅうに音もなく車が後ろに来ていてひかれそうになりました。

どうして今回は車にひかれそうになったのか理由を三つ考えてみました。

一つ目は、音だけでは、車がきているのはわからないと考えました。走る音がうるさい車もありますが、しずかに走る車もあります。だから、音だけで車がきているかどうかはんだんしてはいけないと思いました。

二つ目は、ちゃんと見て道路をわたっていないのがわるかったと考えました。いつも車がこないから今回もだいじょうぶだと思って、すぐに道路をわたろうとしたから、車が来ているのに、気づかなかったのだと思います。

三つ目は、車は、しん号きもおうだん歩道もない場所は、スピードを落とさずに走ってくることが多いと考えました。なぜなら、車を運転している人は、しん号きやおうだん歩道がある時は、人がいるかもしれないと注意してくれます。でもないところでは、道路で人がわたっているとは思わないのでスピードは落とさないことが多いと思います。

車にひかれない道路のわたりかたはどうしたらよいのでしょう。わたしは二つの作せんを考えてみました。

一つ目の作せんは、道路をわたる時は、しん号きやおうだん歩道があるところをわたるということです。そこなら、歩行者がゆう先に歩けるところなので、車も注意してくれます。だから、すぐ道路をわたりたくても、きちんとしん号きやおうだん歩道のところまで、行ってからわたった方が安全だと思います。

二つ目の作せんは、横だん歩道でかならず一度立ち止まり、いつでも右を見て、左を見て、右を見るという安全かくにんをかならずするということです。しん号きやおうだん歩道があっても、わたっている人に気づかない車もいるかもしれません。だから、自分でいつでもかくにんしたほうが安全だと思います。

わたしがじこにあったら、家族がとても悲しみます。わたしも大けがをしてしまうかもしれません。だから、ぜったいにじこにあわないようにしたいです。この二つの作せんはかんたんにできる当たり前のことです。当たり前のことをきちんとやる。これが、じこにあわない大切なことなのだと思います。

★交通安全作文コンクール最優秀賞作品【小学生高学年の部】

『車とおじいちゃん』

大玉村立玉井小学校　4年　遠藤　源大

ぼくのおじいちゃんは、今年で九十才です。だけど、まだ車を運転しています。おじいちゃんは、「おれはまだ運転できる。」と言っていますが、おじいちゃんが運転する車に乗っていると、ひやひやすることがあります。ぼくは、いつかおじいちゃんがニュースになるような大きな事こを起こすのではないかと、いつも心配しています。おばあちゃんやお母さんも、おじいちゃんが運転することについて、「今すぐやめなさい。」と言っています。

おじいちゃんは、長い間、自動車学校の先生をしていました。自動車学校では、たくさんの生徒に、車を運転するときに気を付けることや大切なことなどを何度も教えてきたそうです。だから、車はおじいちゃんにとって大切で特別なものなのだと思います。お母さんは、「じいじは昔から車の運転がとく意で、みんなの送りむかえをしたり、旅行につれて行ってくれたりしたんだよ。」と教えてくれました。そして、「じいじのお家みたいに、ふべんなところに住んでいると、車は生活に欠かせないものだよ。運転をやめるということは足をうばわれることと同じだし、ゆう気がいることなんだよ。」と言っていました。

ぼくはニュースで、集団登校中の小学生の列に車がつっこむ事こを見たことがあります。のこされた家族は、朝、子どもが元気に出かけていったのに、次に会った時は死んでしまっているなんて、とても悲しい気持ちになると思います。心の病気になる人もいるそうです。また、ぼくのおじいちゃんと同じぐらいの年れいの人が、事こを起こしたというニュースも見ました。

ぼくは、高れい者のめんきょ返のうという言葉を聞いたことがあります。めんきょを返すということは悲しいことではなく、お年よりが起こしてしまう交通事こがへって、いいことだと思います。ぼくは大好きなおじいちゃんが事こを起こしてほしくないし、けがをしてほしくありません。だから、「車はもう乗らないでね。」と言ってあげたいです。

これから先、おじいちゃんがめんきょを返のうして車に乗らなくなったら、ぼくがおじいちゃんの力になります。たとえば買い物に行きたくなったらぼくが、おじいちゃんが買った物を全部持ってバスに乗ろうと思います。病院に行きたくなったら、いっしょにタクシーに乗ってお世話をしたいです。そしていつかは、おじいちゃんをぼくの運転する車に乗せて、おじいちゃんの役に立ちたいと思います。

★交通安全作文コンクール最優秀賞作品【中学生の部】

〝自制心〟を育てて

本宮市立白沢中学校　2年　磯崎　陽葵

「また飲酒運転による痛ましい事故が発生致しました。」「高齢者による事故が多発しております。」「あおり運転による逮捕です。」…これらのニュースは耳にしない日がほぼない程、毎日のように報道されています。

何故なのだろう…どうして自分事ととらえて行動できないのであろう…起こした事故は昨日ニュースで見ていたのではないだろうか…そう考えると悲しさより怒りがこみ上げてきます。予期せぬ巻き込まれ事故であれば、〝運が悪かった〟という部分もあるかもしれません。しかし飲酒運転など身勝手な行動で起きる事故は、〝運が悪かった〟ではなく、〝起こるべくして起こした計画的犯行〟と言われても文句は言えない事故だと思います。

飲酒運転にしろあおり運転にしろ、すべて自分でコントロール出来る事だと思います。自分にもっと厳しくできれば…〝自制心〟が備わっていれば無くせる事故だと思うのです。

それだけではありません。自分の心をしっかりコントロールし、衝動や欲望を抑え、踏みとどまって、〝今のこの判断はどうなのか…、間違っていないか…、周りを巻き込んだり迷惑をかけることはないか…〟と考えて行動する事も本当に大切な事だと思います。

先日、JR郡山駅前で受験生の女性が、飲酒運転の車にはねられ、死亡した事故から間もなく一年半になるという報道がありました。

この事故が起こった時、テレビに映った事故の瞬間の衝撃の映像が、今でも忘れられません。テレビに映る度に、目を塞ぎたくなる程でした。この事故も起こるのを防げた事故だったはずです。

僕達の様にこれからのまだ見ぬ未来に夢を抱いて進んでいこうとする存在が、一人の身勝手な考え、行動で一瞬にして奪われしまった現実を、もっともっと重く受け止めていかなくてはいけないはずなのです。それなのに…月日も経たぬうちからまた一つまた一つ同じ様な事故が繰り返されています。何故繰り返されるのでしょうか…。どうして〝明日は我が身〟という風にとらえることができないのでしょうか…。

免許を持っているという事は〝大人〟なのです。一から十まで指示されないと分からない〝子供〟ではないのです。

そして、一度立ち止まって考えてみて欲しいです。その行動がもしかしたら誰かを傷付けたり、裏切ったりするかもしれないのです。

〝信じてくれる人を裏切らない〟…その心があれば、痛ましい事故は減っていくと思うのです。

〝犠牲の上に平和が成り立つ〟…失った命の経験を生かさせて頂き、二度と辛い涙を流すことのないよう、一人一人が気を引きしめて、周りへの思いやりも忘れず、社会生活を送っていく必要があると思います。

★交通安全作文コンクール最優秀賞作品【一般の部】

『ルールを守ることが格好良い』

本宮市　渡邉　美保

「右見て、左見て、もう一度右見て、車なし。お手手上げて、渡りまーす。」

これは、お散歩中に横断歩道を渡るとき、いつも息子にかける言葉だ。一緒に外を歩けるようになってからずっとかけ続けてきたこの言葉に、最初は全く反応しなかった息子も、少しずつ手を上げるようになった。三歳になった今では、横断歩道を渡りきるまで手を上げられるようになり、私の真似をして「渡りまーす」と声も出す。まだ、横断歩道で手を上げる意味は分からないだろう。それでも、小さな息子が一生懸命手を上げ、自分の存在を知らせながら渡る姿は、可愛らしく、そして誇らしい。

そんな息子の姿に、ふと、自分の子どもの頃を振り返る。いつから私は手を上げなくなったのだろうか。交通安全について覚えているのは、小学生の頃、自転車に乗るときには必ずヘルメットをかぶるように言われていたことだ。当時、私の地元では登下校中の中学生ぐらいしかヘルメットをかぶっておらず、ヘルメットなしで自転車に乗る幼なじみたちが、なんとなく格好良く見えて羨ましかった。

そんな私の考えは、ある冬の日に大きく変わった。道端に積もった雪にタイヤをとられ転んだのだ。そこはガードレールがない川沿いの道で、幸いにも私は車道側に倒れた。しかし、もし川側に落ちていたら、もし後ろから車が来ていたら、もしヘルメットをかぶっていなかったら、重大な事故になっていたかもしれない。対向車線の運転手の驚いた顔は、今でも覚えている。そのとき、安全は格好良いか悪いかではなく、自分自身を守るためのものだと気づいた。

現在、私は車を運転する立場になり、自分のちょっとした判断が、自分だけでなく誰かの命に関わることを実感するようになった。歩行者や自転車のそばを通るときには緊張するし、息子がチャイルドシートを嫌がり、乗ってくれないときはとても困った。それでも過去の教訓を胸に、安全のためにチャイルドシートが必要なこと、そして、正しく乗ることこそが格好良いのだと伝える。こうした声かけが、少しでも息子の心に残ってくれたらと願う。そしてそれは、私にとっても交通安全について改めて考えるきっかけにもなっている。

これから息子が成長していく中で、安全よりも格好良さや楽さを選びたくなることもあるかもしれない。そんなときに、「ルールを守ることが格好良い」と思ってもらえるように、まずは私自身が安全を意識し、ルールを守って行動する姿を見せていきたい。「渡りまーす」という小さな一言から始まった交通安全。これからも息子と一緒に、手を上げること、ルールを守ることの大切さを、ひとつひとつ積み重ねていきたい。